

第31回 山寺芭蕉記念館 文化セミナー

# 芭蕉を生んだ江戸文化

— 江戸の文化から芭蕉を探る —



山本 陽史氏



原 淳一郎氏



佐藤 琴氏

## 11月2日(土) 江戸の「お勉強」

— 芭蕉たち文学者はどうやって  
古典の知識を身に付けたのだろうか? —

山本 陽史氏 (山形大学名誉教授・  
東京大学生産技術研究所シニア研究員)

## 11月9日(土) 近世文学における芭蕉の位置

原 淳一郎氏 (米沢女子短期大学教授)

## 11月23日(土祝) 山形の山と版画

佐藤 琴氏 (山形大学学術研究院教授)



芭蕉翁図 月僊筆 本館蔵

■時間：午後2時から3時30分まで(受付は午後1時から)

■会場：山寺芭蕉記念館 研修室1

■受講料：各回500円

■受講定員：各日50人(先着順で定員になり次第、締め切りますので、お早めにお申し込みください。)

■申し込み：山寺芭蕉記念館まで

電話(023-695-2221)またはFAX(023-695-2552)で、「お名前、電話番号、参加日」をお知らせください。申し込み受付は各開催日の前日まで。当日申込不可。

主催 山寺芭蕉記念館指定管理者 公益財団法人山形市文化振興事業団

協力 山寺観光協会



HP

11月2日(土)

## 江戸の「お勉強」

— 芭蕉たち文学者はどうやって古典の知識を身に付けたのだろうか? —



山本 陽史氏  
YAMAMOTO Harufumi

◇ためしに『奥の細道』の文庫本を開いてみると、膨大な注釈が付いています。芭蕉の句や文の注として『源氏物語』や唐代の詩人杜甫の「春望」などが引かれています。では芭蕉はこれらの古典をどのようにして身に付けたのでしょうか?

芭蕉と私が専門とする江戸後期の戯作者山東京伝を例に江戸の文学者の勉強方法を探ります。

〔講師のプロフィール〕

1959年、和歌山県生まれ。東京大学大学院で近世日本文学を専攻。現在、山形大学名誉教授。東京大学生産技術研究所シニア研究員、山寺芭蕉記念館運営懇談会委員、日本世間学会代表幹事、日本トランプ協会副会長。イタリア・ポローニャ市と交流する市民の会「チェントロ・ポルティコ」顧問。ポローニャで俳句ワークショップ等を開催。2005年山形県松山町(現酒田市)文化功労表彰、2014年山形市市政功労表彰(教育・文化等)。

著書に『なせば成る!』『江戸見立本の研究』(共に共著)『東北から見える日本』。論文に「東日本大震災と世間」。映像作品(脚本)に『奥の細道 百代の過客』『階は長にして』(出羽三山開山1400年記念番組)など。山形新聞連載「やまがた再発見」寄稿者。2017年酒田市立松山小学校校歌を作詞。山形コミュニティ新聞に「判官びいきの系譜」を連載中。

11月9日(土)

## 近世文学における芭蕉の位置



原 淳一郎氏  
HARA Junichiro

◇『奥の細道』は、永らく学校教育のなかで、近世文学の代表的作品と教えられ、一般にもそのように認識されている方が多いでしょう。しかし本当に『奥の細道』は、近世文学の代表的作品と言えるのでしょうか。松尾芭蕉と俳諧を近世文学史に位置付けながら、『奥の細道』の意義を再検討していきます。

〔講師のプロフィール〕

昭和49年(1974)神奈川県生まれ。慶應義塾大学文学部史学科日本史専攻卒業。同大学大学院文学研究科史学専攻前期博士課程へ進学。2006年同大学大学院後期博士課程修了。2007年慶應義塾大学より博士(史学)。日本学術振興会特別研究員(東京大学史料編纂所)、慶應義塾大学大学院非常勤講師等を経て、2008年山形県立米沢女子短期大学日本史学科講師。現在、山形県立米沢女子短期大学日本史学科教授。専門は日本近世史(宗教史、山岳信仰史、旅行史、米沢藩政史)、民俗学、文化人類学。

著書に『近世寺社参詣の研究』思文閣出版、2007年、『寺社参詣と庶民文化』(中山和久・筒井裕・西海賢二と共著)岩田書院、2009年、『江戸の寺社めぐり—鎌倉・江ノ島・お伊勢さん—』(歴史文化ライブラリー320)吉川弘文館、2011年、『江戸の旅と出版文化—寺社参詣史の新視角—』(シリーズ日本の旅人・監修石井正己・錦仁)三弥井書店、2013年

11月23日(土・祝)

## 山形の山と版画



佐藤 琴氏  
SATO koto

◇現代の私たちは書籍やスマホによって絵や物語を楽しんでいます。その源流は出版業が盛んになり、浮世絵や書籍が商品として流通するようになった江戸時代にあります。今回は芭蕉が訪れた山形の山を描いた江戸時代の出版物をとりあげ、山に対する人々の関心と描き方の変化について紹介します。

〔講師のプロフィール〕

昭和45年(1970)宮城県生まれ。現在、山形大学学術研究院教授。東北大学、同大学院修了。文学修士。平成7年(1995)宮城県教育庁入庁、県立博物館建設準備業務に従事。平成11年(1999)東北歴史博物館開館後は同館学芸員。「平賀源内展」(2004)、「日本三景展」(2005年)などを担当。平成23年(2011)から山形大学にて学芸員養成を担当。附属博物館の学芸員として博物館活動にも携わる。専門分野は日本美術史(近世絵画)と博物館学。主要著書は『国宝大崎八幡宮 仙台・江戸学叢書47 描かれた松島』(大崎八幡宮 2013年3月)。

FAX用 お申し込み用紙 (FAX023-695-2552)

ふりがな お名前		電話番号	
ご参加の回に○印をお願いします。		11/2	11/9
		・	・
			11/23